

平成 20 年度 総務文教常任委員会 行政視察報告

平成 20 年 11 月 25 日

- 1、日程 平成 20 年 10 月 28 日（火）～30 日（木）
- 2、視察先 鹿児島県 垂水市 面積 162 km² 人口 1 万 8 千人
鹿児島県 志布志市 面積 289 km² 人口 3 万 5 千人
- 3、視察事項 垂水市 「学校統廃合問題について」
志布志市 「志布志創年市民大学について」
- 4、視察者 一行 9 名
 - ・委員 大関 勝正 委員長 保坂 裕一 副委員長 大平 一貴 委員
亀山 重光 委員 安田 憲喜 委員 茂岡 明與司 委員
樋口 浩二 委員
 - ・当局 坪谷 正良 庶務課参事
 - ・随行 藤田 理恵 議会事務局主査

【垂水市の概要】

大隅半島の北西部、鹿児島湾に面する中央に位置し、海上・陸上の要衝にあたり、年間平均気温が 20.4 度と温暖な気候に恵まれています。

垂水市は、昭和 30 年に牛根村、新城村と合併し、昭和 33 年に人口 3 万 5 千人で市制を施行しました。その後人口の流出、過疎化、少子化などで、現在は人口が 1 万 8 千人に減少しています。平成 16 年に市町村合併の動きがありましたが、結果として単独の道を余儀なくされることとなりました。

【学校の現況】

「小学校」 小学校は 8 校で、生徒数は垂水小学校が 435 人で生徒数が一番多く、一番少ない小学校は 13 人、次に 19 人と 25 人の小学校があります。これらの小学校は 3 学級で複式授業を行っています。生徒の合計人数は 786 人となっていますが、5 年後には 133 人減少し 653 人になる見込みです。

職員は県費職員数 86 人、市費職員数は 13 人になっています。

「中学校」 中学校は 4 校で、生徒数は垂水中学校 300 人で各学年 3 学級、垂水南 65 人、協和 62 人、牛根 17 人で各学校・学年とも 1 学級で、牛根中は 1 年生が 7 人、2 年生が 4 人、3 年生が 6 人の学級編成になっています。市内全体の生徒数は 444 人ですが、5 年後には 54 人減少し 390 人になる見込みです。

職員は県費職員数 57 人、市費職員数は 6 人で、垂水中学を除く他の中学は教諭等が 7～8 人で専門の教師が配置できないという問題をかかえています。

【統廃合の経過】

- ・平成 10 年 6 月議会の一般質問で、小学校の統合問題が提起され、以後 3 年間に 5 名の議員が質問を行い、統合による子供への影響や行財政などについて質す。

- ・ 教育委員会と小中学校校長による勉強会で、中学校を統合する。その後、小学校の統合を進めることで意見集約を行う。
- ・ 平成16年中学校の統合目標を18年度とし、保護者・地域住民を対象に「学校統合説明会」を開催する。
説明会での住民の反応は、予想に反し反対が多数を占めたため、「検討委員会」を作り、学校統合について検討・協議してもらうこととしました。
- ・ 検討委員会は平成18年3月、「教育環境の整備、複式学級の解消、適正規模の確保を図るためには統合は必要である。平成18年度以降は学校統合推進委員会を発足させ、諸事項を検討・協議すること。」との答申を行いました。
* 大野小・中学校の保護者は統合に賛成し、平成18年度から統合しました。
- ・ 答申に基づき、垂水市小中学校統合推進委員会を設置し、検討と住民への説明を重ねました。その結果
 - ① 小学校の統合については、地域住民の理解を得ながら中学校の統合の推移を見て検討してゆく。(当面統合を計画していない。)
 - ② 中学校の統合については、4校を1校に統合する。その目標年度を平成22年度とする。
 - ③ 市議会(平成19年12月)において中学校統廃合の議案が可決される。

【統廃合の理由】としては

- ・ 児童生徒数の著しい減少への対応
- ・ 複式学級の解消の必要性
- ・ 適正規模の確保(標準学級数の確保)
- ・ 専門の教員の配置(中学校)
- ・ 部活動・学校行事の活性化
- ・ 学校施設の老朽化への対応
- ・ 垂水市の財政状況

などで、これらの内容について住民への説明を行い、住民の理解のもと統合に向けた取組みを進めています。

【所 感】

学校の統廃合によって地域が衰退するとの懸念や、統廃合が財政的な都合や国の方針に基づいて行われる場合がありますが、垂水市の場合の統廃合は子供の教育環境を充実することが大きな目的の事業であると感じられました。

学校は教育の場であると同時に地域の住民にとっては様々な集まりや行事などを行う地域のコミュニティーの場でもあります。日常生活と深く関わってきた学校がなくなることは地域にとって大きな損失になります。子供の教育を守り充実させるための住民との合意作りができたことは、垂水市の現在の学校の実情から考えますと大きな成果であったと思われま

【志布志市の概要】

平成18年に志布志町と松山町・有明町が合併して志布志市が誕生しました。

志布志市は鹿児島県の東部、宮崎県との県境に位置し、広大な農地と温暖な気候を生かしてピーマン・お茶の栽培、肉用牛・養殖うなぎの生産が盛んな土地です。

志布志港は、昭和44年に国の重要港湾の指定を受け、平成8年には九州で唯一の中核国際港湾に位置付けられ、新たな多目的国際ターミナルの整備が進められています。

【社会教育について】（生涯教育）

生涯学習の運営の基本として『「いつでも どこでも だれでも」学べる生涯学習体制を確立するとともに、学習者自ら主体的に学ぶ学習活動を通じて学んだことを社会に還元する生涯学習社会の形成と生涯学習のまちづくりの推進に寄与する。』としています。加茂市の社会教育の基本方針は、『いつでも どこでも 自由に学習機会を選択して学ぶことのできる生涯学習社会をめざして、……学習機会の拡大、発展を積極的に進める。』としており、志布志市とは「学んだことを社会に還元する」という点でおおきな違いがあります。

志布志市の生涯学習の取組みの特徴は、自ら主体的に学ぶことと、学んだことを社会に還元することにあります。以下、市民大学の取組みについて報告いたします。

【生涯学習の組織】

生涯学習センターは、住民の生涯学習の支援や学習成果の記録、学習情報の収集・提供などを行い、公の学習活動と私的な学習活動に分類しています。公は私的活動の動機付けや支援を行うことが主体で、民間の生涯学習推進委員が活動の中心になっています。そのため財政負担が少ないと考えられます。

生涯学習推進委員会



生涯学習センター

[公の学習活動]

創年市民大学

地域アニメーター養成講座

平成子どもふるさと検地

[私的学習活動]

生涯学習講座

生涯学習フェスティバル

さわやか大学

パソコン講座 など

【志布志創年市民大学】について

創年とは「新たな人生に挑戦する生涯現役を目指すひと」という意味で、子育てを終えた人や定年を迎えた自由時間のある人をイメージし、少子高齢化社会において、創年が主役として活躍するまちづくりを目指しているものです。

志布志の市民大学講座には他との違いがいくつか見られます。

1講座1単位とし、28単位で卒業になりますが、希望により大学院で受講できること。・総長がいること　・校歌「桜の木下で」がある　・修学旅行がある　などの特色を備えています。

講義のほかに、自由研究グループがあり、平成20年度の研究テーマとして

- ・ しぶし創年団；子どもたちの安全を守り、安心して学べる環境づくりに努める。
- ・ 地元学；山間部や市街地の商店街にて地元学を実践し、志布志の特長を生かしたまちづくりを見出す。
- ・ 子育て支援；創年が地域で、いかに子育てに関わっているか、どのような役割を担っているかを探求する。

など、8項目の研究テーマが学生に与えられているとのことでした。

質問で：学生が単位をとって卒業すると生徒の確保が難しくなるのでは？

答弁：単位をとっても卒業していない人が多い。卒業しないで研究グループを立ち上げてもらっている。との事でした。

【学習成果の実例】（別紙）

学習の成果の例

- ① 看板を作って市のPRとして活用しているとの事でした。視察で会議室に入ると、多くの説明員と立派な横断幕（別紙）が私達を迎え、感激しました。
- ② 鹿児島といえば芋焼酎の生産で知られています。自主研究グループが本格焼酎「創年の志」を完成し、その貴重な成果を味わうことができました。あらためて感謝いたします。（別紙）
- ③ 園芸講座を受けた卒業生が、園芸用ハウスを共同出資（300万円）で建てて花を栽培し、公共施設や市民に安く販売しているとの事でした。（別紙）
- ④ 安心安全しぶし創年団は、子供達の登下校時の安全守り、パトロールや防犯マップの作成など、子供の安全を守り安心して学べる環境作りをしています。このしぶし創年団には1,000人以上の団員が協力しているとのことでした。

【所　　感】

定年を迎えて時間をもてあまし、これからの生きがいを求めている人は多いのではないのでしょうか。行政がその動機付けをし、地域に活気が生まれ安全になることはすばらしいことと思われます。

市民大学の講義を聴いて「よかった、ためになった」で終わるのが現実ではないでしょうか。勉強の成果を実際に生かすことが重要であると改めて感じました。

会議室へ案内されて、多くの方から迎えていただき感激すると同時に、地域アニメーターの方達の生き生きとした目の輝きが印象的でした。